# NAREC Newsletter Newsletter

環境再生事例 近畿

# ささやま里山 再生活動

里山の循環的利用を目指して

カテゴリ

自然環境



対象テーマ



活動の概要



兵庫県篠山市にパナソニックグループ労働組合連合会が所有する休暇村施設「ユニトピアささやま」があります。そのエリア (約8万坪) 内で、かつての里山を忠実に再現し「里山の循環的利用」を目指す取り組みを行っています。

休暇村「ユニトピアささやま」は、1973年(昭和48年)「自らの手で自然を守り、大自然の中で人間性の回復や連帯性を高める憩いの場」として開村されました。今日まで自然環境を維持しつつ人工林や手作りの花壇を作り、多くの皆さんに親しまれてきました。

私は、休暇村内を調査する中で、開村前に存在した棚田や溜池の跡を発見しました。そのことをきっかけに「この貴重な自然を蘇らせ自然との語らいができる場所をつくろう」と決意し「ささやま里山再生活動」として、所有団体とパナソニック エコリレー ジャパンと共に取り組んでいます。

『パナソニック エコリレー ジャパン 』とは、社会との協働でひろがるエコをめざす活動です。地域の人々や地方自治体、学校や行政、環境 NPO などと協働し、より包括的な環境活動をめざしています。

Panasonic ECO RELAY for Sustainable Earth

1. ユニオン (労働組合) が目指すユートピア

# 復元前のようす

米づくりを目指して棚田再生!



棚田は、およそ70年前まで耕作されていたようですが、その後は、瓦礫などで埋め立てられており、梅林として活用されていました。

まず、最初に50坪ほどの田んぼを復元するため、その場に植えられていた梅木を伐採し、根を起こし、土壌 調査などを行いました。 田んぼに相応しい土壌なのかどうかの確認は、最初、 手作業で進めていたのですが、途中から重機を使用して 瓦礫の撤去作業を行いました。

調査の結果、適度な粘土層が確認できたので、瓦礫 撤去後は、粘土と田土の補充をすれば再生は可能であるとの判断ができました。

# 復元後のようす

生物多様性の宝庫に大変身!



土壌調査から約6ヶ月、延べ100人のボランティアが参加し、周辺の雑木林整備、棚田や畑の再生、ため池や水路の整備を行いました。

現在は、このエリアの上に3枚、下に2枚、計5枚の棚田が広がっています。棚田では、完成した2012年より毎年米づくりを、5枚ある畑では2014年より黒豆づくりを行っています。

溜池は、上に 1ヶ所、下に 1ヶ所、合計 2ヶ所を復元 しました。 復元後は、これまで見かけなかったモリアオガエル、 ニホンアカガエルなどの希少生物が多く見られるように なり、オオムラサキの飛来数も増えました。

その他、このエリアでは、アキアカネ、ヒメアカネ、 ハルゼミ、ヘイケボタル、アカハライモリ、トノサマガ エル、シュレーゲルアオガエル、ニホンヒキガエルなど レッドリスト種がみられるようになりました。







- 3. 再生前の梅木の根起こし作業
- 4. 再生前の梅林







- 5. 最初に再生した棚田
- 6. モリアオガエルの産卵
- 7. ニホンアカガエル
- 8. 棚田エリアに飛来したオオムラサキ

### 復元計画 • 手順



はじめに、関係者で構想・イメージづくりを行い、具体的に進めて行くための体制「ユニトピアささやま里山再生実行委員会」を立ち上げました。

委員会内で「調査研究班」「棚田再生班」「休憩エリア 班」と大きく役割分担をしたのち、かつての里山の情報 収集を始めました。近隣住民の記憶聞き取り調査や近隣 にある棚田や溜池などの視察、地元農家(米づくり、野 菜づくりなどの指導など)との連携を通じ、検討を進めま した。

そして完成したのが、9の図です。

イメージの中には、画像内左下の休憩スペースやピザ窯なども設け、継続して、このエリアで楽しむための工夫を取り込みました。

その後は、右記掲載の手順に従い活動を進めています。現在は、第2段階の途中です。一般利用者のためのルールづくりを行っています。

#### テーマ

生物多様性と持続可能性

里山里地における重要な循環型資源=生物資源 (特に植物バイオマス) と水

#### 手順

#### 第1段階

かつての里山を忠実に再現する。設定時期は昭和30年代以前もしくは戦前。

里地里山復活に当たっての調査、これに基づき計画をつくる。

- ①過去の里山および農耕の利用方法・年間スケジュールなど 当地の過去の資料を収集。不明の場合は近辺の過去資料に よる。
- ②過去にユニトピアささやまのどの場所をどう利用していたかを知る。

過去資料または現地の植生や地形の調査による。

③希少種の調査過去調査のデータ、現況

#### 第2段階

モニタリングと順応型管理により里山管理を進める。 また、一般利用もルールを作りながら進める。

#### 第3段階

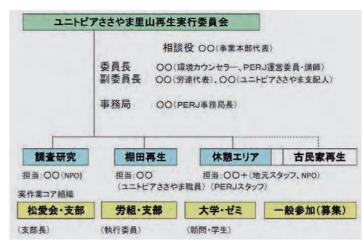
新たな管理手法あるいは新たな利用方法を検討する。 かつての里山利用を現代の科学により見直し、生物多様性を維持し つつ可能な新たな管理手法・利用方法を研究する。 継続的な活動 のために・・・。



活動に参画できる団体・組織・個人など、ボランティアを募り、体制づくりを行いました。定例活動日(基本

毎月1回、4時間程度)を設定し、毎年、年間活動計画を作成し、計画に基づき具体的な作業を実践。地元農家の皆さんに活動日をお知らせは、ハガキを送り、活動日時などの案内をしています。

米づくり、野菜づくりについては、地元農家の皆さん に協力をいただきながら進めているのですが、3年ほど 前から、シカ、イノシシなどの獣害に悩んでいます。



ささやま里山再生実行委員会体制図



1



- 10. 棚田再生後、初めての稲刈り
- 11. 黒豆の畑
- 12. 棚田再生後、初めての田植え

9. 棚田再生エリア イメージ図

## 今後の展開と課題



これまで、施設を所有する団体・企業の協力を得なが ら、ボランティア活動として、里山再生を行ってきました が、このエリアを維持管理していくためには、今以上に 他団体、組織、一般市民などとの連携を深めていく必要 があります。特に循環型の里山里地にしていくためには、 これまで以上に活動頻度を高めていく必要があります。

社員の人材育成(環境教育)、高齢者の生き甲斐づくり、 次世代育成など、様々な組織・団体・個人・老若男女が 集い、楽しみながら「持続可能な社会づくり」に貢献で きればと考えています。

将来はこのエリア内で様々な里山保全活動体験や動植 物観察会、環境研修会などを実施したいと考えています。



- 13. 兵庫県内大学生との協働
- 14. 参加者集合写真



山口進 (やまぐちすすむ) 環境カウンセラー パナソニック エコリレー ジャパン・事務局長 環境再生医(上級) 1963 年生まれ

●活動分野

農村地域の自然復元 / 都市と農村の人的交流

●連絡先

E-mail: yamaguchi.ssm@jp.panasonic.com

ユニトピアささやま里山再牛計画 HP http://unitopia-sasayama.pgu.or.jp/ecorelay/

パナソニック エコリレー ジャパン HP http://panasonic.co.jp/citizenship/environment/ perj/index.html